

ホスピス型住宅で3社協働

LA社、リエゾンと日本ホスピスHD

不動産販売事業などを手掛けるLAホールディングス(以下・LA社)

の子会社であるラ・アトレ及びLAアセットは8月17日、同社のグループ会社であるリエゾン・パートナーズ(同)と日本ホスピスホールディングス(同千代田区)との間で業務協力契約を締結したと発表した。

LA社は、2015年3月に日本ホスピスホールディングスの子

会社が運営するサービス付き高齢者向け住宅2棟を取得し、高齢者住宅事業分野に参入。同分野での投資を積極的に進め、現在ヘルスケア施設計8棟を保有する。日本ホスピスホールディングスは、現在計16棟のホスピス住宅を展開しており、うち4棟の不動産をLA社が保有。また、リエゾン・パートナーズは、LA社の同分野参入時よりヘルスケア施設取得に際してのスキーム構築、事業調査及び事業モニタリングなどのアドバイザーを務めてきた。

今後、LA社が、日本ホスピスホールディングスのホスピス型住宅事業展開における不動産情報の入手から保有までをサポートし、リエゾン・パートナーズが取得時から運営期間中のアドバイザー業務を担うという役割分担により、ホスピス型住宅事業を3社協働で積極的に手掛けていく方針だ。